

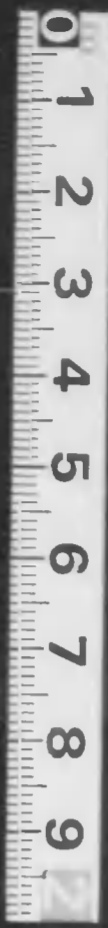
週寫
報眞

編輯部報情閣内
ンセ十・號九廿第・日一卅月八

昭和二十三年八月一日發行 每週一兩次隔日發行 第廿九號



防空おぼえ帖





内務大臣 末次信正

撮影 木村伊兵衛



正 信 末 次 信 正



營業部 東京市京橋
營業所 大阪市北濱
名古屋市榮町

工場 福島、富久山、郡山
郡山第二、郡山第三、名古屋
新潟、金澤、伊丹

日 東 紡 績 株 式 會 社

ス・フのお洗濯に是非!!

東洋一 産額

ニッザン 洗濯 石鹼



東京・芝・日産館
日本油脂株式會社

燈火管制の種類

影報内閣情報部



警備管制 敵機が何時襲つてくるかも知れぬ。急ぎで警備管制に入った。屋内の燈も減光し、直射光が外に漏れぬやう、電燈には規則通りの遮光用具をかけ、又いつても空襲管制に入れるやうに、萬全の用意をして置かう。



平時 外には、赤白の鉛筆がくるくると勢よく廻り店內には明るく、い燈が輝いて、平和に營業を續けてゐる理髮屋さん。



空襲管制 空襲警報が告げられた。針程の光も外にもらしてはならぬ。開口部は厚い黒布で隙なく蔽ひ、直ちに仕事をやめ、わが身を、家を、町を守るべく部署につかう。



準備管制 然し憎むべき敵機は、この平和な床屋さんの住む町の空をも出る。準備管制と同時に、理髮屋さんは、逸早く鉛筆の燈を消した。町中のネオン廣告燈、門燈等屋外の燈は消して、空襲に備へよう。

防空おぼえ帖



これが上海鐵路管理局北側木造家屋破壊の惨状です。我々は、かくある日を期して、十分、防空施設を整へ、規律ある訓練をしませう。

撮影 東部防衛司令部

空襲の味覚

ぐっすり眠りこけてゐた。めづらしく砲撃のない夜だった。曇つて月もない。全く戦場も化してゐた。海は紅い。その夜だけは静かに眠つてゐた。まだ、大場鎮も暗くない。昨年十月十八日の夜のこと。午前一時頃誰か顔から歸つて来て、驚かされた。今夜は静かだ。一寸目を覚ました。今夜は静かだ。一向に撃つて来んな。空襲さへ無さそうだ。驚きを打ちながら寝かけた頭にも「やれ、今夜は眠れるぞ」と考へた。そしてすぐ眠の谷に落ちていった。

突然、疑へる顔に血よりも赤い眼を見た。闇を人はず、のしか、つて来た。耳を突き破る大爆音と地震と、悲鳴とガラスの破片を、全身に浴びて飛び起きた。

味方の猛烈な対空射撃の音、敵機の爆音、夜空に炸裂する高射砲。恐ろしいほどに自分でも、ならぬ。混迷と混濁のままに、掛け布を引かぶつて隠の階段をすべり落ちていった。音生！ 驚かしやがる。

「今のは近かつたぞ床がはずんで、俺はゴム毯のやうに飛上つた」

「まだ居るな」

「撃つてゐるね」

宿舎の食堂の暗闇の中で、懐中電燈のほのかな灯に描き出された顔が口々にのしつた。その時、「火事だ」

「火事だ、火事だ。日本人は皆外へ出てくれ。早く消さないと目標になる」

「陸軍隊へ早く電話をかけてくれ前の電気事務所が焚夷彈にやられた。福民病院も焼けてゐる」

皆そのまゝ、戸外へ飛び出した。い

ま、で窓を避蔽してあつたため、僅かに四間道路を距たてたお向ひが黄色い煙をあげて炎を上げるとしてゐるのかわからなかつた。

「バケツを持って来い」

「近も角、やれるだけせう。延焼を食い止めよう。防空演習の意気なゆけ。これ位のことですつてたまるものか。皆バケツに水を引つさらつては走つた。まだ対空射撃はやまない。まだ空襲の真最中だ。高射砲の破片が、機銃弾が降つて来る。あつたは無論命はない。しかしあの火は一刻も早く消さねばならない。次の襲撃の目標になるばかりでなく、恐らくもう半時間と経たないうちに宵から絶えてたかつた砲撃も始まるだらう。

消せ！

幸ひ建物には煙瓦造だ。陸軍隊の兵隊さんも、在籍軍人も、居民も、男も女も、一丸となつて弾つての中で炎を食い止める。事務所の窓からバケツの水をたきこみ、隣の扉にかけた。百に餘る人手が騒がたかやうにして半時、機銃弾がブチ抜いた事務所の一角、一階と二階を半壊に止めて眠をあげた。目標になる！ この一念か見事焼夷弾に防つた。

宿舎から百メートル程裏の民家には破弾が落ちて二名の犠牲者を出してゐた。冊子内外の爆弾焼夷弾をとりまて九発宿舎を中心として二百メートル内外の範囲の中に落されてゐた。

この時の姉妹の一個が命中してゐた工部局の福民病院はあまりに猛烈な火勢のため無惨な犠牲者を出した。明けか、つた空に福民病院の煙が、茶褐色にくすぶつてゐるのが残つた眼にほおつとみえた。

内閣情報部

林 謙一

時たつ遭に襲空で路街

守れ大空

支那事変勃発以来わが忠勇なる陸軍航空部隊は、朝に大陸の奥深く夕に國南の翔翼をつらねて、暴戻なる支那軍を撃破し、到る處威風凛々たる武功を輝かせてゐる。しかし、一朝機をかへて、わが國がもし空襲を受ける立地になつたならばどうであらうか。有事の際、海を越えて敵の航空機が本土に襲撃することは、今次支那事變の経験によつても十分察知し得る。わが陸海軍の旺盛なる戦闘精神と、精銳なる航空機、高射砲が国土防衛の任にあつてくれることは勿論であるが、國民また軍防空に

呼應して、國民防空の責を擧げることが必要である。空襲の禍害を防止し、また被害を軽減するために、國民は協力一致、平常より必要な施設をととのへると共に、統制ある訓練をなし洋儀をおささおさないやうにしなければならぬ。ここに空襲をうけた際の處置に就いて、個人、家庭を中心とする場合に依つて明かにした。非常時の國民常識として熟讀されんことを望む。尙、今回の機縁に際し演習勤務奉仕をもつて協力した、東京新聞編集長兼助氏一諸君の勞に感謝の意を表したい。

⇒ 通行中、空襲警報を受けた時、何處迄、何處迄とこんな様子で見舞ふ。然し、この瞬間の狼狽、冷静を失つた態度は空襲の慘禍に好んで飛込やうなものです。

⇒ 避難するにしても、我勝ちに先を争つて逃げ迷つたり、後方に恐怖して周章狼狽する時は、そのために生ずる被害の方が、空襲そのものによる被害よりも大きなものとなりまします。お互ひに十分注意しませう。



撮影 内閣情報部



⇒ 空襲警報を聞いたら、直ぐ附近の堅牢な建物に避難し、奥まつた處で、硝子戸類から遠ざかり、姿勢を低くして居りませう。



⇒ 附近に地下室のある時は建物に沿つて、壁然と地下室に入りませう。然し、十分防備を施してゐない地下は、安心が出来ませんから、指導者の注意を十分聞いて行動し、又常時から避難の智識を得て置きませう。



⇒ 電車、自動車等に乘つてゐる場合は、警官係員の指揮に従つて、停止と同時に、附近の建物に避難するか、避難所の無い時は、腰かけの下等へ身をかくしませう。決して、窓から顔を出したり、進行中の車から飛び降りてはいけません。



はで 原野や園公

野原や、公園を通行中、空襲をうけた場合、附近に大した掩護物もない處から、徒らにあわてて、走り廻つてゐると、却つて、爆撃の目標になります。



どんなものでも利用して、被害を避けませう。ベンチ、立木も、この場合、大切な掩護物です。出来るだけ、身体を低くしてゐませう。



目線になる白い帽子などは身体の下にかくし、凹地の最も低い場所、ひつたりと伏しませう。線路等で仕事中、又は歩いてゐる時は、急いで低い處に降りて、矢張り、伏しませう。

落下と同時に爆撃は、じようご型に炸裂しますから、その線外に身体がある場合、被害は免がれる譯です。従つて、出来るだけ、地面より低い處を選ばねばなりません。

↑ 尚大も何も無い野原の場合は、凹地、溝等を利用しませう。然し、あつて、頭隠して尻かくさずの、こんな恰好では、何にもなりません。

撮影 内閣情報部



家庭では



空襲警報と同時に、近所に防備室、防空壕のない場合は瓦葺きに備へて、老人、子供は紙で十分目張りをした障子で用意の避難室に避難させ健康者は、防護衣、マスクに身を固め、家庭を護りませう。写真のやうな、セロハンの防護カヤも一時の間には合はせませんが、徹底的な防護や破壊火災をなへて、防護マスクは、是非用意しなければなりません。

硝子戸には手早く紙を張り、畳をたてかけて、四散する爆弾、硝子の破片を防ぎませう。同時に、ふすま等とり外しの出来る建具は一處にまとめて、火災の擴がるのを防がねばなりません。尚消防用水、除煙機、砂等は、平常から用意して置きませう。(下右)

時間に餘裕のある場合は、老人、子供を避難所、防空壕等に避難させ健康者は、近所の防火隊と協力、家を町を、しつかりと護りませう。何よりも、落着き、そして日頃からの用意、訓練が大切で、(下左)

↑(上)「そら、空襲警報だ！」と、こわいもの見たさに主人が先に立つて飛び出せば、それについて怖々ながら家族も外に出て、不安と好奇心交々、胸をはすませながら空を仰ぐ。何の用意もしない家庭、若し此の附近に爆弾が落ちたら、この一家は全滅を免れないでせう。

↓(下)又、恐怖からすつかり落着きを失ひ、とかく、こんな風になり易い。平素から、きちんと家の中は片づけて、燃え易いもの大切な品は一定の場所に集め、火災の被害を最小限度に止めるやう心がけませう。

撮影内閣情報部





瓦斯彈が炸裂した！

瓦斯彈が附近に炸裂した時のやうにあわてふためて逃げやうとして、かへつて、湯山の犠牲者を出すばかりです。

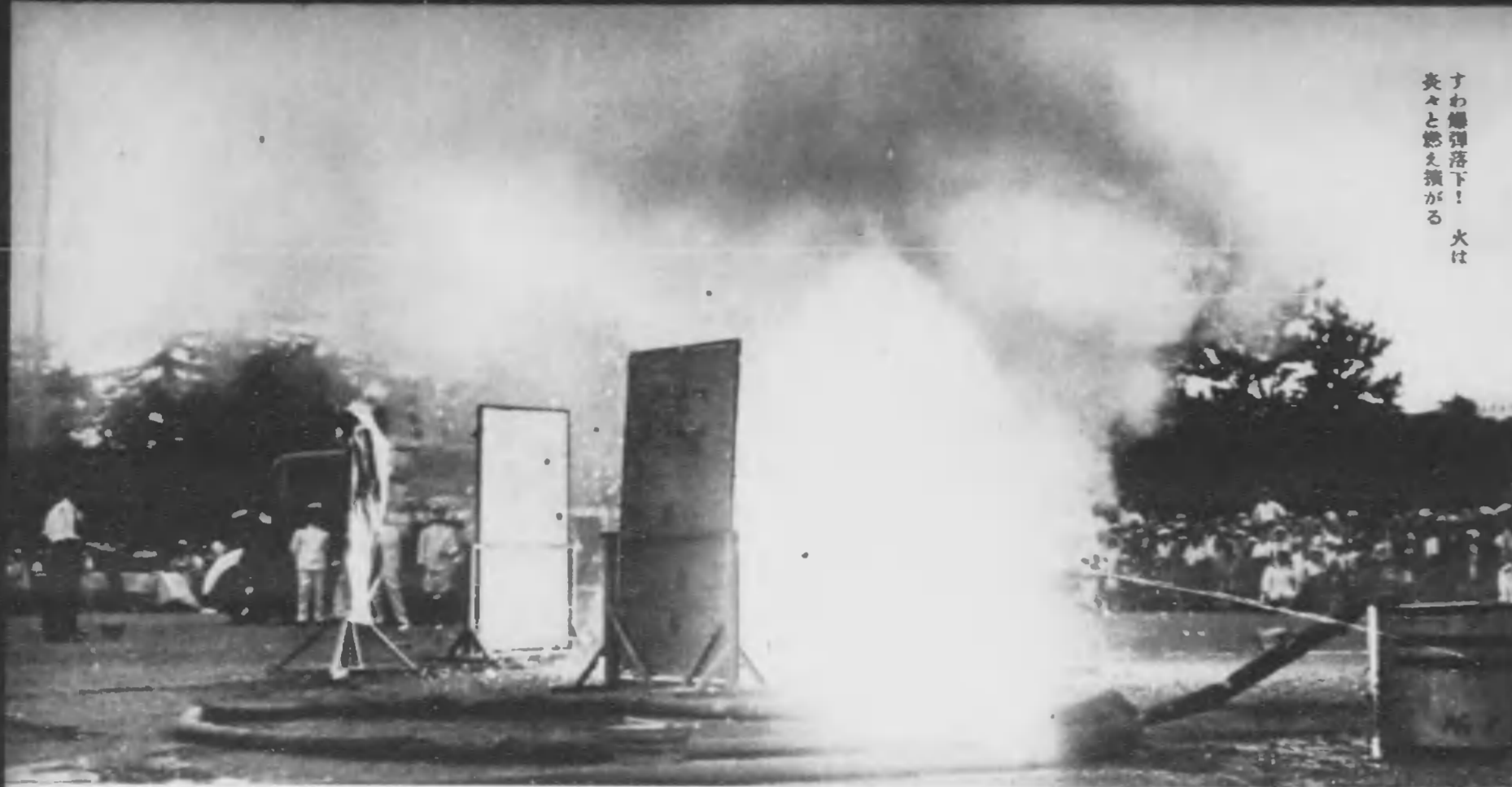
一般に知られてゐる毒瓦斯の種類
 △發臭性(ホスゲン) 氣體で無色乃至白色、特臭・腐敗性・持久性一時、生理作用、呼吸器系統に作用して肺臓に傷害を與へて窒息せしむ
 △無臭性(イペリット・ルイサイト) 氣體及び液體で、無色乃至黒褐色、特臭、前者は芥子の臭、後者は天然の臭、刺激性、持久性・永続的、生理作用、皮膚を腐蝕し、眼、呼吸器を起す。

△催涙性(クロロピクリン・コロラセトフェノン) 前者は氣體無色、後者は氣體又は微粒子、無色乃至淡白色、特臭、前者は刺激性胡椒臭、後者は芳香性刺激臭、持久性、前者は半永続的、後者は一時的、生理作用、眼の結膜を刺激して催涙し一時失明の恐れあり
 △刺激性(チフエニールシアンアルシン) 微粒子で白色、特臭、苦味、桃油臭、持久性、鼻及咽喉の結膜を刺激し、クシヤミ及嘔吐を致せしむ
 これら毒瓦斯に對する救急法、消毒法等は是書最寄の防護圖其他で當に研究して置かませう。

直ぐ濡れ手拭、ハンカチ又は上着などでしつかりと鼻と口を蔽ひ、風上に向つて逃げなせう。群衆が右往左往してゐる場合は、大聲で風上を指示し、警官係員の指導にしたがつて避難をしませう。

撮影 内閣情報部

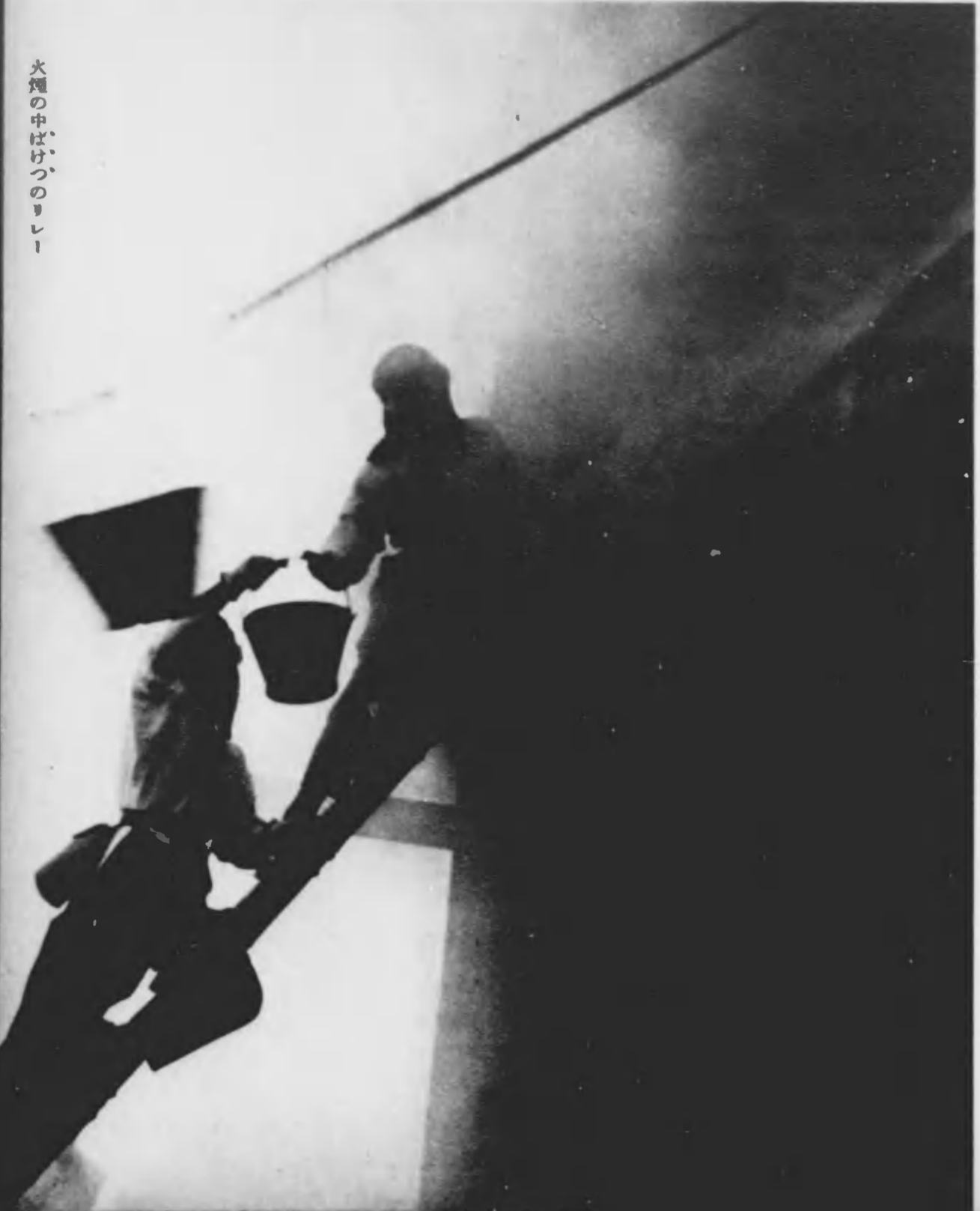




すわ爆弾落下！ 火は
炎々と燃え広がる



延焼を防ぐため焼夷
弾を水攻めにする



火煙の中はけつりのリレー

警視廳東京市主催
内務省後援
焼夷弾火災
防火演習
八月廿一日
於日比谷公園運動場

焼夷弾から我が家を護れ
木造家屋の多い日本の町に
とつて、焼夷弾に對する理解
と防火作業の訓練は、防空業
務中の緊急事であるといふの
で、八月二十一日から四日間
日比谷公園グラウンドに於いて
警視廳、東京市主催、内務省
後援で、焼夷弾火災防火演習
が行はれた。戦時下帝都の空

と我が家を空襲から護らうと
第一日目の廿一日出動した防
火群は、日本橋區家庭防火群
の婦人部員二十五名外都下各
家庭防火群見学者數千名
で、消防頭中もんべに讓々し
く身を固めわが國最初の十キ
ロ焼夷弾空襲演習一キロ、
二キロ、五キロ、の焼夷弾に
點火、大々その防火方法を
熟演したが、家庭に準備出來

撮影 内閣情報部

る水、砂、座蒲團、むしろ、
濡れかます等て延焼をよせ
ぎ、用意さへよければ女手で
十分焼夷弾の災厄を免れ得る
ことを思はしめた。續いて木
造二階建の積家屋で、立體
的防火訓練を公開、防毒面の
装着法や、消毒法を指導、婦
人防火團の力強い活動ぶりを
示した。



セン、姿も華々しい婦人防火群の活動





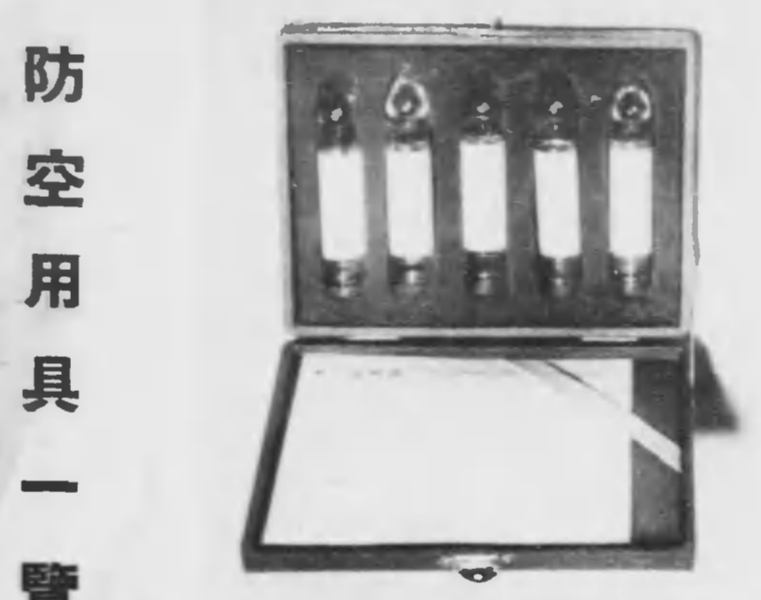
空襲のあらゆる事態に處するには、何をあいてもまづ防護面が必要であり、防護面使用に對する周到な知識を必要とする。防護面は、空襲の際防護作業に従事する人々のためのものとその他一般家庭婦女子用のものと二つに分けられる。家庭用は二圓五十錢位から市場に出ている。防護作業用は十一、二圓前後で吸収直結式と隔離式とある。右高眞の、上は家庭用、中は防護作業、下は一般幼少年用。



毒ガス試吸器のセット。平時からこの各種毒ガスの特臭、色彩を防護員などは殊によく覚えておく必要がある。



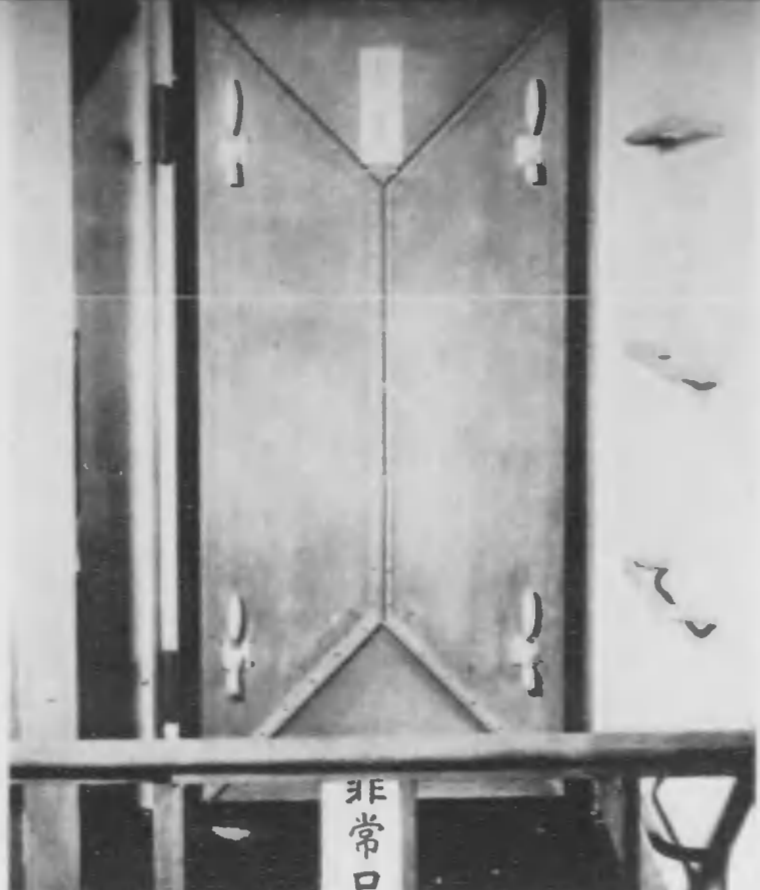
防護作業に當るものは持久性の難燃瓦斯等に備へて防護面の外防護衣の類も用意せねばならぬ。防護衣は堅牢なもので二十二三圓かゝる。



近代戦には検査がない。空襲の深刻な怖ろしさは想像だけで驚嘆してゐるわけにはゆかない。平時の訓練と防護の整備がないとすれば、いざ空



家庭にはバケツその他防火用具が必要だが消火器もいつでもすぐ使へるやうに準備されなければならぬ。



防護防毒扉—ふちはフェルトやゴムで包まれてゐる。一般ビルディング等の防護室の入口はこれに因りねばならぬ。



戦の時、今までの如何なる戦争にもなかつた悲慘がすべてをおぼひつくすのである。非常の際に處する覚悟と知識を蓄積したい意味で今、内務省主催で開催されてゐる防空展の中から代表的な防空防毒用具を紹介する。

撮影 内閣情報部



地下防護室の破壊用具と毒ガス濾過。濾過は毒外気を清浄に濾過し密閉された防護室の換氣をする。換氣扇風の電気モーターは停電の場合には手でハンドルをまはす仕組みである。十人用から二百人收容可能なものである。



セロファン製の防毒カマ、四角半用から十層用まであり、値段は五圓位から十二三圓前後下部の房から通風出来る。長時間の使用にはたえないが、緊急品として發賣されてゐる。

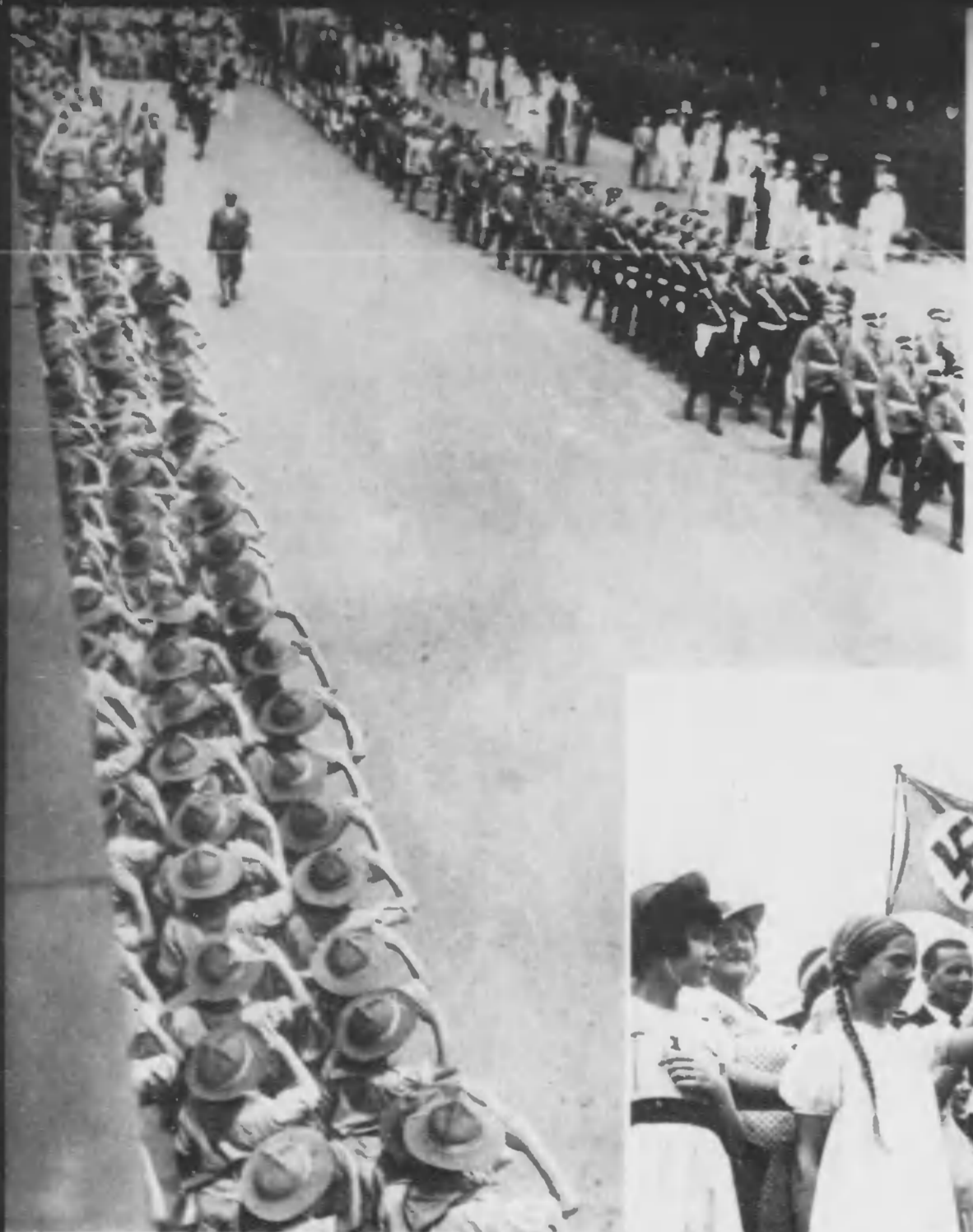


部屋の隙間をふさぐ自吸り用テープ。防護面の吸収力は大ききによつて値段は異なるが、毒ガス中で百五十時間くらゐの吸収能力のあるものもある。



不審にして毒ガスの被害にあつた場合は出来るだけ早く救急の處置をとらなければならぬ。生命を護る色々な薬品を入れた救急箱は手近なところに備へよう。

る來團遣派 トンゲーユ・ーラトッヒ



検疫のため横浜港内に訪日第一夜の夢を結んだヒットラー・ユングントの一行は十七日午後零時半、横浜市民の「ハイル・ヒットラー」を浴びつゝ、團長シュルツェ氏を先頭に機夾とあこがれの上陸第一歩を印した。

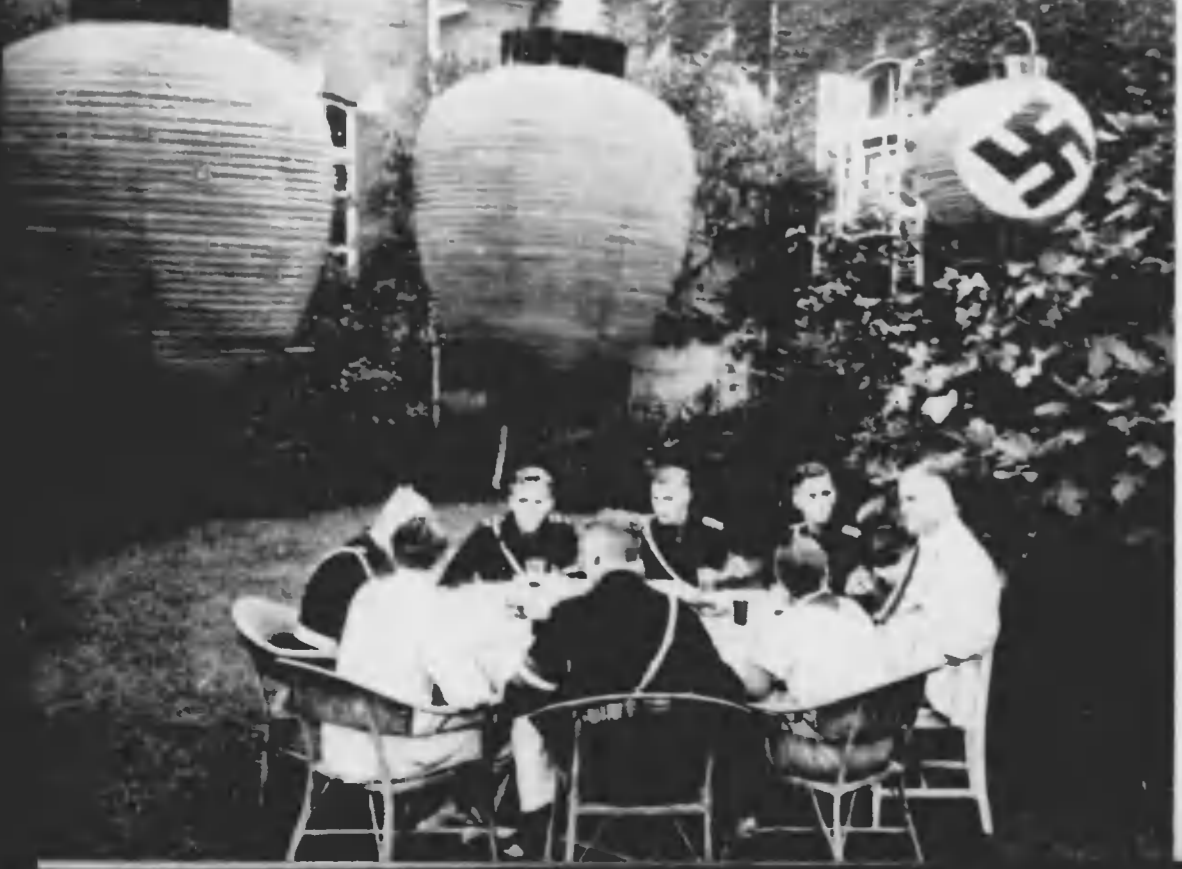
輝かしい故國の青少年を迎へて大喜びの在来ドイツ人。

横浜埠頭に日本健兒を代表して、盟邦の友を迎へるわが少年團。



この日夕刻、一同打揃つてドイツ大使館を訪れ、お待ちかねのオットー大使はヒットラー・ユングントの胸像の前で歓迎と激励の言葉を述べたのち、館内庭園で打ちくつろいだお茶の會を催した。

官民數萬の歡呼の嵐に迎へられて東京驛に降り立つたヒットラー・ユングント一行は、降車口から音楽隊の愛國行進曲に導かれて驛前廣場の歡迎式場に向ひ、わが男女青少年團員と入京最初の歴史的交際をよけた。



憧れの日出づる國に防共の若き親友と同じ心の親手を交さうと七月十二日故國ドイツのブレーメンを出發したヒットラー・ユングント一行三十名は八月十六日横浜入港、十七日官民數萬の歡呼の嵐に迎へられて晴れの希望に入つた。

レヂャカー副團長以下の一行はさきに五月二十五日東京を出發した逸獨派遣のわが青少年團を迎へて交際の數日を送つた後、入れ違ひに日本に向つたもので、飛邊巡歴中のわが青少年團とともに日獨の全青年が兩國の明日の發展のために、直接相觸れ、相知つて、理解の上に立つ協力を誓はうと來朝したのである。

現在ヒットラー・ユングントの總數は約八百萬一國家發展の鍵は青少年の手に在りといふヒットラー總統の信條に従つて教育に、體育に、團體訓練に、勞働奉仕に、新興獨逸の未來を双肩に擔つて盡刺と活躍をよけてあるが、こんど來朝した一行はこの八百萬のヒットラー・ユングントから選りすぐられた最も優秀な青少年で、幹部八名、その他二十二名、何れ

も二十歳前後の若年ながら、故國にあつては、幹部はよく一萬人の指導者であり、他も二百名から六百名の指導者である。一行は十九日一旦離京富士山麓山中湖畔でわが青少年團員五百名と盛大な日獨交際大野營を行つたが、二十日には富士登山を決行、以後約三ヶ月間、東嶽下の眞の日本を語り、愛國心に燃える日本の全青少年と心からの交際を遂げるため、北海道から九州まで全國にわたつて遊歴するはずである。

世界の西と東に防共の共同敵線を張り互ひに相携へて明日の躍進のために奮闘しつゝある日獨の青少年が、この親善の好機會を得たことは單に兩國數千萬の若人にとつて喜ぶべきことであるばかりでない。世界の平和を希ふ兩國にとつて眞に意義が深い。われはここの機會に發刺たるヒットラー・ユングントから新與ドイツの意氣と力を汲みとり、そして今來會の歡びを感ひつゝある日本の眞の強さをはつきりと示さうではないか。

撮影 内閣情報部



二十日、いよいよ待望の富士登山決行の日が来た。出発を前に前列左からレディンガー副団長、少年團副団長、事務長、本部長、松井大尉、荒木文相、シムルツエ副団長、傷兵保護院院長、本庄大尉、馬返しでバスをすてると、わが少年團代表六十名が先頭をきり、ヒットラー、ニューゲントがこれにつぎ、最後が青年團代表二百名、シムルツエ副団長以下管笠に輝き、金剛杖の純日本式で、本人の二倍もあらい大コンパスで「ハイル・ハイル」となへながら登つて行く。



東京野前廣場に日獨青少年團の初の交際を行った一行は、宮城を通過、明治神宮に参拜後、九段靖國神社に詣で、神前に「日本民族の戦死勇士に捧ぐ、ヒットラー・ニューゲント派遣團」と誌した樹の大花環を献し、世界平和の尊い人柱となつたわが勇士の英霊に心からの黙禱を捧げた。



日獨青少年交際野營の日。わが可憐な少年團員が心づくしの野外劇「桃太郎」長短歌試合「なごに」ヒットラー・ニューゲントたちが腹を抱えて笑ひつけてゐるとき、中支に勝つた松井石根大將がひよつこりモンペに竹皮笠といふ姿で現はれ、盟邦の若人とあたたかい握手を交した。



東京藤倉工業株式會社



陸軍科學研究所

御指導
型式御認可品

目種業營

小	二	二	一	一
家	號	號	號	號
人	庭	乙	甲	甲
用	用	型	型	型

防空用防毒服

店賣販總

會商藤株式會社

地番五目丁五四區銀橋京市東京

番四一八六座銀(57)話電

量進録型

力讀者の
カメラ

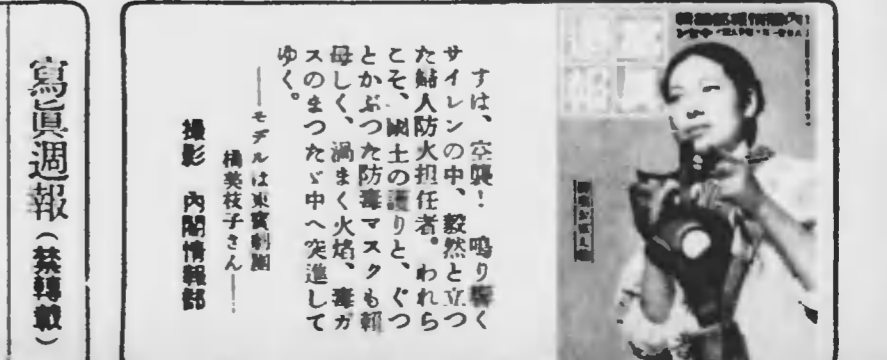


流汗暴仕
山形高等工業学校
毛利廣賢
夏々たる夏山の麓を背景に、こゝ甲府市郊外に山梨高等工業学校生徒による砂利採取作業。河原の砂礫に照りかへす烈日に、汗を流す若者の汗ものかは、若人の意気は紅と燃え、訓練將士の勇気もかくやとはるかに大陸の夏をしのんだのであつた。



街の緑化
東京市小石川區
小竹映翠
私等の手で美しい緑の葉を植へようとする下中等学校生徒による街路樹の入手作業。長い竹竿の先につけた鉄でアサギ／＼小枝を落とす者とな名コンビが街からして翌日一日の作業は汗の尊さ下労働の神聖を體せしめるに十分であつた。

寫眞募集規定
本誌は「寫眞週報」の一助にもと考へ、出来る限り紙面を開放し諸君のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は内外併設、職業の宣傳に關するものなら何でもよい。例へば物にも田圃にも、或は工場、家庭、學校など列所に於ける最後の写真、國民精神運動風景、或は季節と並相の面白い組合せなどもどうぞ。一枚の寫眞でも數枚に組む眼裏でもよく、時期は決定せず、カメラはキヤメラ以上、掲載の分には贈物又は記念品を贈呈し願はる。寫眞は原寸に製するものとす。応募作品は一切返却せず。
内閣情報部



寫眞週報(發刊部)
昭和十三年八月廿一日印刷發行
發行所
内閣情報部
東京市町田區本町町
内閣情報大臣官舎内
大日本印刷株式會社
東京市三區市谷
三丁一ノ二番地

寫眞週報(發刊部)
昭和十三年八月廿一日印刷發行
發行所
内閣情報部
東京市町田區本町町
内閣情報大臣官舎内
大日本印刷株式會社
東京市三區市谷
三丁一ノ二番地

防空

國民防空展覽會 開催地及日割

開催地	時期	会場
東京	八月九日—次日	三越
大阪	八月五日—七日	大阪三越
福岡	九月廿一日—廿三日	岩田屋
仙臺	九月七日—十日	仙臺三越
新潟	九月廿一日—廿三日	萬代
新潟	十月九日—十七日	松坂屋
名古屋	十月廿一日—廿三日	福屋



省務内

寫眞週報 昭和十三年二月十二日 第三號 郵政特准掛號認可 昭和十三年八月廿一日發行 (每週一隔水曜日發行) 第廿九號

(本書の大きさは國定規格A4・『週報』倍判)